

地震以外の自然災害への対応について

【豪雨災害における対応】

令和7年12月16日(火)
総務部 危機・防災対策課

【目次】

1 豪雨について	3頁
2 豪雨被害の性質	5頁
3 過去の豪雨災害	6頁
4 市災害対策本部の体制	9頁
5 平時からの備え	10頁

1 豪雨について(定義と特徴)

- ・豪雨とは、「激しい雨が降る現象」のこと
- ・雨量に関する明確な基準はない

長時間にわたり広い範囲で降る

 集中豪雨



特徴

- ・気象庁が、数値予測モデルを用いて予測（精度をあげる必要はある）
- ・梅雨、台風時期に発生しやすく、河川の氾濫などをもたらす
- ・線状降水帯が停滞することで発生する

短時間に狭い範囲で降る

 ゲリラ豪雨
(局地的大雨)



特徴

- ・予測するのが難しい
- ・河川の急な増水や氾濫、アンダーパス等の冠水
- ・5月頃や夏頃に発生しやすい

1 豪雨について(時間雨量)

10~20mm未満
やや強い雨



20~30mm未満
強い雨



30~50mm未満
激しい雨



50~80mm未満
非常に激しい雨



80mm以上
猛烈な雨



- ザーザー降る
- 長く続くと注意

- どしゃ降り
- 傘をさしても濡れる

- バケツをひっくり返したように降る
- 道路が川のようになる

- 滝のように降る
- 先が見えない
- 多くの災害が発生する

- 息苦しくなるような圧迫感がある
- 恐怖を感じる
- 大規模な災害が発生する恐れが大きい



1 時間雨量30mm~50mmを超えたら要注意！！

2 豪雨被害の性質

土砂災害



- ・土石流
- ・がけ崩れ
- ・地すべり

浸水害



内水氾濫

短時間の豪雨等により、水路
や下水の排水能力が低下し、
住宅地などが冠水する。

洪水害



外水氾濫

河川のはん濫を外水はん濫と
もいう。

雨の降り方や降る場所によって発生する災害が異なる

➡ 自分の地域で起こり得る災害を事前に把握しておくことが大切
ハザードマップの確認や過去の災害の継承

3 過去の豪雨災害

①平成24年 南部豪雨災害 (事例) 石山外畠町



土石流発生後の現地①



土石流発生後の現地②



現地対策本部の様子

3 過去の豪雨災害

②平成25年 台風第18号

□滋賀県、京都府、福井県で全国で初めて「**特別警報**」が発表された。



千丈川の決壊



横木二丁目 アンダーパスの浸水

3 過去の豪雨災害

③令和3年度の豪雨被害（高砂町）



土石流発生後の現地

④昨年度の豪雨被害

令和6年7月24日の大雨による被害事案

県道47号 伊香立浜大津線に土砂流出(穴太三丁目)

県道316号 比叡山線 隣接家屋(1軒)が床下浸水(下阪本六丁目)

4 市災害対策本部の体制

●災害対策本部体制

本部長(市長)を含め、143人の職員にて構成

●各部局災害対応体制(全職員約2,400人)

- ・専ら所掌業務に専念する部局(企業局、消防局等 約450人)
- ・部局選出の初動支所班員(216人)の職員
- ・部局選出の避難所担当員(131人)の職員
- ・各部局に残る上記以外(約1,500人)の職員
⇒市が実施すべき災害対応を行う

5 平時からの備え (風水害の特徴)

●災害から身を守るために3つのポイント

- ・豪雨予測は困難なケースもあるが、豪雨による水害は予測できる災害
- ・早めに行動すれば、被害を減らすことができる。

①事前の確認

・ハザードマップで自宅の危険性を確認

※水防法の改正を踏まえ、今年度、ハザードの見直しを滋賀県が実施。
令和8年度ハザードマップの作成を予定。

②情報入手

- ・ポケットおおつ、大津市防災ナビなどの地域に特化したアプリを使う
- ・テレビやネットなどで事前に情報を入手

③早期避難

- ・状況に応じ、早い段階で適切な行動を取る。

